

気温が思ったほど下がらないので、霧氷が見られるかどうか多少心配しながらの山行である。

西明寺の御幸橋駐車場に車を止め登山準備。人気の山なので続々と登山者の車が到着する。

積雪量も少なくワカン是要らないと判断するが、元気なメンバーが持っていくと言う。

林道を歩き、ヒミズ谷出合小屋で衣服調整し歩き始める。例年なら積雪が踏み固められた滑りやすい登山道に苦勞するのだが、霜柱があるものの乾いた登山道が暫く続いている。

登るにしたがって登山道にのみ白い積雪が現れるが、アイゼンで耕され細粉されている。

5合目の避難小屋辺りから山肌全面が積雪で白くなるが、部分的に地面が露出した場所がある。

7合目の行者堂で全員アイゼンを付ける。このブナ林帯から夏道ではなく冬道を歩くことになるが急斜面となるのでアイゼンがあると歩きやすい。

標高差わずか100mほどの急坂だか結構きつい。標高1,500m辺りから霧氷が現れる。尾根から見える綿向山の北斜面辺りの霧氷が美しく輝いている。しかし山頂が近づくと霧氷が全く消えて期待感が急速にしぼんでしまった。

山頂到着。ランチタイムにはすこし間があるが、これからの下山が重労働なので早めに食べることにする。天気が良ければ雄大な雨乞岳が目の前にあるのだが本日はガスのため展望は無い。

山頂から南に向かう。霧氷を求めて訪れる登山者の99.9%は表参道の往復である。本日も水無山に向かう登山者は少数らしく、踏み跡は全く消えている。水無山との接続尾根は特徴がなくガスが掛かると見つけにくい。コースを誤りガレ場に向かうと非常に危険なので慎重な見極めが必要。山頂尾根から西へ雪の急斜面を下る。今年はワカンの必要が無くアイゼンで充分歩ける。ガレ場の縁は風で雪が飛ばされて雪が薄く草付きなのでアイゼンを引っ掛け滑落すると大変だ。

下山ルート of 南斜面を覗くと斜面が大きくカール状に崩落し高度感がある。コルで休憩し水無山に向かう。岩などで多少苦勞するが、短時間で水無山に到着。山頂は展望が無い。休憩後西に向かって下山開始。結構楽しく歩ける面白いルートである。標高800m辺りから杉の植林帯となり、方向がやや北向きに変わるとやがて林道に出る。林道には道標があり、下山ルートはすぐに分かる。杉林の中をジグザグに下ると。ヒミズ出合小屋が見えてくる。

★メンバー 三鍋他4名

★コースタイム 登山口 8:35～アザミ小屋 9:32 発 37～

五合目避難小屋 9:56 発 10:02～7合目 10:25 発 36～山頂 10:58 発 11:20～水無山 12:04 発 12:07
～ヒミズ小屋 12:15 発 18～登山口 13:35